

### 第3分科会

## 高齢者の社会参加と福祉の町づくり

- - コミュニティ・ビジネスをつくる企業・商店街

コーディネータ 古谷 直道  
(センター事業団)

### 序

全市町村の4割弱に当たる1230市町村が過疎地域に指定され、地方都市においても中心市街地の空洞化が進んでいます。これに少子高齢化が重なって、高齢者が住む町の活気がしぼんでしまっています。その一方で、「まちづくり」「コミュニティの再生」という言葉は全国的に頻繁に使われるようになってきました。今、町を崩壊させる力と町を再生させる力はどのような拮抗関係にあるのでしょうか？

### 破

今春4月から介護保険制度が施行され、新しい理念に基づいて、分権的介護システムと市場原理の導入が始まりました。「地域福祉」が地域住民にとって新しい価値観の形成と新しい活動の可能性をもつ領域となってきています。当然、町づくりにも福祉は重要な要素として考えられるようになります。また、長期の経済低迷、リストラと倒産・失業の増大の中で、新しい産業のあり方と新しい働き方が注目を集め出しました。コミュニティ・ビジネス、IT革命の活用が産業政策にとり込まれ、労協法の議論が広がってきました。こうして、町づくりは新しい段階に突入しようとしています。

### 急

労協・高齢協は、地域福祉事業を本格的に取り組み出しました。その「地域福祉」は、その地域の町づくりにどのような関係をもつことになるのでしょうか？ 高齢者が参画する地域福祉によって新しい町ができるのでしょうか？ 「こんな町を作ろう」という積極的な構想を持ちうるのでしょうか？

商店街・商工会議所・様々な企業そしてNPOもコミュニティ・ビジネス/町づくり/地域福祉に多大の関心をもって多様な活動を展開し始めています。新しい産業の可能性があるのでしょくか？ そこには新しい価値があるのでしょくか？ そこでは新しい方法・やり方・システム、そして町に住む人たちの幸せが展望しうるのでしょうか？

このような課題を、全国の貴重な実践経験を通して検討し学習し、幾つかの活動指針をえられたなら、この分科会の目的は達成することになると思います。